



# 経済情報コーナー

## 香港で「日本ふるさと名産食品展」を開催しました！

(財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課主査 新山 公美子 (東京都大田区派遣)

(財)自治体国際化協会経済交流課では、地方自治体の海外における経済交流活動（観光客誘致、産品の輸出促進等）の支援、先進的事例の情報提供等を行っています。香港において、全国から集められた食品のテストマーケティングを目的とした食品展、食品展開展企業のうち希望した企業と地元香港企業との商談会を開催しました。

平成22(2010)年度は、上海で同食品展を開催し好評を得たため、今年度も上海で開催する予定でしたが、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故に起因する中国の日本食品輸入規制の影響が長期化し、食品展開催までに商品輸入が間に合わないおそれがあったことから、開催場所を変更する必要が生じました。

香港は、日本食品の輸出先として最上位の市場であり、多くの日本食品が浸透しており、自治体が販路開拓支援に取り組む地方の特色ある産品等を受け入れる素地があると考えられます。また香港は、東日本大震災後の輸入規制についても、震災直後から中国本土とは別の規制を設けているため、日本食品輸入について中国本土ほど大きな影響は出ていません。以上の理由から、今年度の開催場所を香港としました。

### 開催概要

- (1) 日時 2012年2月1日(水)～2月7日(火)  
10:00～22:00
- (2) 場所 香港特別行政区  
「香港そごうコーズウェイベイ店」  
地下2階食料品売り場
- (3) 主催 (財)自治体国際化協会
- (4) 出展内容  
いちご・みかん・りんご・梨・干柿・  
かんしょ・うどん・梅干・昆布・ラー

メン・醤油・わさび加工品・ジュース・  
日本酒・梅酒・ドレッシングなど

- (5) 参加自治体および出展企業数 15自治体・23社
- (6) 運営委託会社  
株式会社リンクスコポレーション
- (7) 販売総額 約100.3万香港ドル
- (8) 販売個数 約16,000個

### 食品展の特徴

- 全国の地方自治体を通じて香港をはじめとする海外販路開拓に意欲のある企業を募集したため、日本全国から有望で特色ある商品が集まり、日本食品に親しんだ香港の消費者にとっても魅力的な食品展となりました。
- 「日本ふるさと名産食品展」は、2009年から3回、中国上海の久光百貨店で開催しています(平成22(2010)年度より(財)自治体国際化協会主催)。過去3回の好成績により、久光百貨店では最も人気がある食品展といわれています。このノウハウを引継ぎ実施することにより、出展企業に対し、実績に基づいたサポートを提供することが可能となりました。

### 出展する企業と商品の選定

自治体を通じて出展企業募集をしたところ、17自治体31社から応募がありました。食品展開催中、社員を派遣する意向があるかどうか、過去の食品展における販売実績、百貨店の意向（香港で好まれそうな商品を優先）



たくさんの買い物客でにぎわう会場内



等を選定基準とし、最終的には15自治体23社を選定しました。香港には日本食品が浸透しているため、既存のものとの差別化できる商品構成となるよう配慮しました。

海外販路開拓に意欲的な企業が多く、19社が社員を香港に派遣しました。海外における食品展は初めてという企業も多く参加しました。開催期間中は、通訳を介して香港の販売スタッフに自社の商品の特徴を懸命に伝える姿が多く見られました。商品の販売状況に応じて、価格を変更したり、試食方法を工夫したりとテストマーケティングの場として、また企業同士の情報交換、連携を深める場としても活用いただけようです。



日本の果物は大人気



いちごは一日で完売

## 香港の日本食品事情

ジェトロによると、香港では、日本食の普及・定着が進んでおり、食の安全・安心に対する関心の高まりとともに日本産農林水産物・食品の人気が高いと言われています。東日本大震災・原発事故後、数か月は風評被害の影響があったものの、現在はほぼ回復しているとのこと。自由貿易政策を取っている香港では、輸入品には関税が課せられないため、商品の価格を安く設定することができます。このため、日本産農林水産物・食品が豊富に輸入されており、香港そごう、日系スーパーでは日本とほとんど変わらないほど品揃えが充実しています。

香港の日系スーパーを訪ねて見ると、日本の菓子類が棚を埋め尽くし、醤油、酢なども多数の商品が並んでいます。麺類も、日本の近所のスーパーではあまり見かけないような特色あるものまで取り揃えられています。有機食品も多くあり、日本の高級スーパーと似ている印象を持ちました。

## 販売状況

### ●日本の果物が人気

日本の果物、野菜の人気は予想を超えていまし

た。事前調査時にも、百貨店担当者から日本の果物、野菜は大変人気があるとは聞いてはいましたが、価格を抑えて販売したいちごは、初日で完売となりました。りんご、梨、みかん、かんしょなど試食提供を始めると人だかりができ、購入する人が続出しました。

### ●人気の麺類

稲庭うどん、氷見うどん、白川郷べーめん、ハーブパスタ、ブラックラーメンなど多様な麺類が複数の企業から出展されました。各企業とも試食提供をしていたため、会場内の全ての麺の味比べをして気に入った麺を購入していく客が多く見られました。出展企業によると「もちもちしている」、「こしがある」などの特色がある麺を好む傾向にあるそうです。百貨店の担当者によると、香港では鍋が人気のため、麺類は近年人気があるとのこと。香港そごうの近くにある日本食品を多く取り扱うスーパーでも、日本の鍋コーナーが設置されており、鍋のだし、麺類等が陳列されていました。



日系スーパーには日本の鍋コーナーも

### ●食卓に浸透する日本食品

今回の食品展には、わさび、茎わかめ、昆布、信州サーモンなど、日本独特の食材も多く出展されましたが、香港の消費者は躊躇することなく試





食し、気に入れば購入していきました。酸味の強い商品は敬遠されるなど、日本人とは違った味の嗜好があることは複数の出展企業が指摘していましたが、日本食品全体としては香港の消費者にとってなじみ深いものとなっていると感じました。

### ●販売方法の工夫

過去に食品展に出展した経験がある企業は、クロス、金色の紙などディスプレイ素材を持ち込み、魅力的に陳列していました。一日目に販売がふるわなかった企業のディスプレイを二日目に変更したところ、販売が伸びました。また、ある企業の担当者からは、香港の販売スタッフをどう盛り上げるかが自分たちの手腕の見せどころだという話



試食・試飲は大切

を伺いました。日本人スタッフが積極的に声を出し、香港の販売スタッフをその気にさせることで売り場が活気のあるものとなりました。百貨店の担当者に聞いたところ、香港の消費者はパフォーマンスを好むので、実演販売なども大変効果的だとのこと。商品の見せ方、販売員、会場の雰囲気は販売を左右する重要な要素なのだと再認識する機会となりました。

### ■ ■ 今後の海外販路開拓支援事業

「日本ふるさと名産食品展」は、非常に好調な売上げを達成し、百貨店、出展企業から総じて高い評価をいただきました。香港そごうの会場は非常に活気にあふれており、開催前に懸念していた風評被害の影響は感じられませんでした。

今回の食品展について、多くの企業が香港の消費者の反応や嗜好が確認でき有益であったと回答されました。食品展開催中から取引の要請があったり、香港貿易発展局の協力を得て開催した商談会を通じて商談が成立したりと進出の足がかりとなったケースも見られました。

当協会としては、今後も食品展開催までのプロセス、結果等につき、自治体の海外販路開拓支援に有用と思われる情報を共有し、地元企業の海外展開支援に取り組む自治体のお役に立てればと考えております。

## 第271号 自治体国際化フォーラム5月号

平成24年4月15日発行  
 編集人 ————— 緒方 俊則  
 発行所 ————— 財団法人自治体国際化協会  
 〒102-0083  
 東京都千代田区麹町1-7  
 相互半蔵門ビル  
 Tel. (03) 5213-1722  
 Fax. (03) 5213-1741  
 Homepage <http://www.clair.or.jp/>  
 E-mail [forum@clair.or.jp](mailto:forum@clair.or.jp)  
 編集協力・印刷 ——— エイト印刷株式会社

本書からの無断複写・転載を禁じます。

## 編集後記

機関誌の編集を担当して、はや一年が経過しました。振り返って感ずるところは、やはり日本語の難しさでしょうか？漢字を多用すれば文章が硬くなりすぎるし、ひら仮名であれやこれやと情報を詰め込みすぎではかえってピントがぼやけてしまいます。外国語を学ぶ以上に、日本語をしっかり学ぶ必要があると感じた一年でした。

「こうした方がよかった。ああいうやり方もあった」と反省しきりですが、そこは前向きにとらえて今後の業務に活かしたいと思えます。

本号をもって新担当者に引き継ぐこととなりますが、自治体の皆様の国際化施策にお役に立ただける情報を少しでも提供できたことを本当に嬉しく感じています。ありがとうございました。

(K.K)